

文庫・520円

文庫・650円

文庫・440円

。だが、今、実際に同  
も、もうそんな感覚は  
頃とは何かが決定的に  
る。これらは身長が一  
びる時期にだけ味わえ

## 心が甦る

ようなものなのだろう

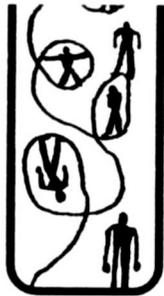
自分が再び永遠の時間に  
特殊な条件が必要にな  
べそしてキャンセル。

『ジゴクラク』では、永遠へのアプロ  
チとしての賭博がリアルに描かれてい  
る。

〈博奕は時間を凝縮する〉〈賭博時空  
間のみが提供可能な、「まっさらで光り  
輝く快楽」〈絶対的自由〉とそれは表  
現されている。大金や破滅を懸けないと  
永遠に近づけないなんて大人は大変だ。

『エミリー』には子供でも大人でもな  
い中学生たちの「永遠の時間」が描かれ  
ている。今にも殺されそうな「苛められ  
っ子」の少女と「ホモ」の少年、残酷な  
日常に心身を削られた傷だらけのふたり  
が特別な一夜を分かち合う。

〈毛布の中は二人だけのシエルター。誰にも侵されぬ二人きりの居場所〉〈君の身体全体の体温を僕の身体全体の肌で感じ取る時、僕は永遠の世界に生きる幼子になれるよ〉



南信長さん(ライター)の

2005年7月30日  
朝日新聞

## 「ミック」教養講座

人は、むが実在のマンガを題材に  
うた 描いた話題作『金魚屋古書  
が薦 店』と同じ。マンガを映画  
気 風に置き換えただけで、企画  
せい としての新味はない。が、  
実際に作品化するには版權

問題も絡み面倒も多いは  
ず。それをあえて実行した  
蛮勇には拍手を送りたい。  
「マキノ」「カザン」「小  
津」「伊丹」といったキャラ  
の名前からわかるよう  
に、映画への愛情がむせ返  
るほど話まっているし、丁  
寧な画面作りにも好感が持  
てる。名画が詠い上げる人  
間賛歌をそのまま取り込ん  
だストーリーも良心的だ。  
時に詰め込みすぎだつた  
り、強引すぎる部分も目に  
つくが、改めて鑑賞する機  
会の少ない古典への入り口  
としては有効だろう。



あの人、  
会社人生  
捨てましたね。

いや。

ただし、一時期流行った  
あらずし本のように、本書  
を読むだけで満足してしま  
っては意味がない。作中に  
登場する映画を実際に観て  
こそ「教養」である。

## 文庫・新書

●吉村昭著『東京の戦争』  
焼け野原の東京で、人々は  
電柱の根元を地中から掘り起  
こし新に代えた。終戦の年の  
暮れ、父の病死に際し、木造  
船所を経営していた長兄は板  
を調達、茶箆箆専門の家具職  
人に頼み棺をあつらえた。棺  
を焼くための木々端持参で火  
葬場へ——。著者が記憶に刻  
んだ戦時下、戦後の生活が鮮  
やかによみがえる。(ちくま  
文庫・525円)

●平安寿子著『グッドラック  
クラらばい』 「ちょっと家  
出」と消えた母を、悠然と待  
つ父。お嬢様学校に進学し、  
女の「立身出世」道をひた走  
る妹、脱力生活を続ける姉。  
それぞれが自分に正直に生き  
る一家を描いた家族小説。  
(講談社文庫・820円)

●広谷鏡子著『花狂い』  
60歳になる妻ふみ子が華や  
きた。夫の治夫・66歳に愛  
人の美春は、「亭主以外の男  
で、女は変わるの」。焦り  
嫉妬する治夫と、同級生との

40年ぶりの再会に心をととき  
かせたふみ子の性愛を描く。  
老年男女が主役の恋愛小説。  
(ハルキ文庫・672円)

●J・G・バラード著『コ  
カイン・ナイト』 旅行作家  
チャールズはジブラルタル  
へ。地中海に臨むこの高級リ  
ゾート地でクラブ支配人を務  
める弟が殺人容疑で逮捕され  
た。その無実を証すためだっ  
た。浮上する有閑階級の怠惰  
な日々。真相は？ 官能的な  
英国サスペンス。(山田和子  
訳、新潮文庫・940円)

●アン・ハリス著『フラク  
タルの女神』 娼婦マグノ  
リアの美貌と覇気、天性の電  
子工学の才に、人工知能生命  
体を研究する老科学者ラウル  
がほれこんだ。彼と接点をも  
ったところからマグノリア  
の運命は大展開——。米国の  
近未来小説。(河野佐知訳、  
創元SF文庫・966円)

●松尾寿子著『国際離婚』  
賢い結婚は離婚に関する情  
報を知った上ではじめて成立  
する——。フランス人と離婚  
して2児を育てた経験を踏ま

えた、著者の実感である。こ  
じれた際の子の親権や養育費  
などをめぐる、まさに国際紛  
争の困難に直面する人々に取  
材したリアルな現状報告。  
(集英社新書・714円)

●中西雅之著『なぜあの  
人は話を通じないのか？』  
様々の局面で生じる行き違い  
や誤解は、論理では割り切れ  
ぬ「非・論理コミュニケーション」の複雑なメカニズムに  
起因する。自己の「不透明  
性」や「コンフリクト」など  
のキーワードを説明しつつ

「しなやかな知覚」で人間関  
係を円滑にする法を説く。  
(光文社新書・735円)

●「記憶と表現」研究会著  
『訪ねてみよう戦争を学ぶミ  
ュージアム／メモリアル』  
沖縄の平和の礎から、今は再  
開発が進む9・11テロの現場  
まで。惨禍をもたらした巨大  
な暴力を後世に伝える国内外  
の博物館や記念碑を紹介す  
る。現代の視点から、どう戦  
争を追体験するか。解説に、  
熱い思いがにじむ。(岩波ジ  
ュニア新書・819円)